



# 五加の学び舎

千曲市立五加小学校  
学校だより NO.12  
R6.11.21(木)

## なかよし月間 校長講話 「ええところ」

五加小学校の合い言葉である「自分も幸せ みんなも幸せ」になるために…まず、自分が幸せになること。そのために、皆さんが「自分が好き」と言えるようになることを願って、今日は、「ええところ」という絵本を紹介します。一人一人、「自分のええ（いい）ところって、どこかなあ？」と考えながら聴いてみましょう。

人（大人も子どもも）は、「自分のいいところ」には気付きにくいものです。だから、なかよし月間では、「友だちのいいところ」をいっぱい見つけて、いっぱい伝えてあげましょう。そして、自分の良さに気付くと自分が幸せ（好き）になり、みんなを幸せにすることにつながると思っています。

### ～子どもたちの振り返りから～

- ◆友だちに、自分のいいところを伝えてもらったというところに優しさを感じました。そして、自分のいいところに気づき、自分のいいところを伸ばそうとする気持ちも素敵だと思いました。このお話で、自分のいいところに気づくことができました。・・・
- ◆ぼくは、これまで自分のいいところをあまり探したことがありません。けど今日のお話を聞いたら、友だちや家族のいいところをもっと探そうと思えるようになりました。・・・
- ◆今日のお話は、すごく心に残りました。校長先生の言うとおりに、「自分のいいところってどこなんだろう？」って思いました。そうしたら、校長講話のあと、友だちが「〇〇ちゃんのいいところは、優しいところ！」と言ってくれました。「ええところ」の主人公と一緒にした。これからは、自分で自分のいいところを見つけたり、友だちに伝えてあげたりしたいです。
- ◆子供も大人も必ずいいところがあると思いました。「私にはいいところがない」と主人公は言っていましたが、友だちは言いました。「手があたたかいところ」＝心が優しいという思いが込められているんだと思います。また、友だちのいいところを見つけてあげるのが、本当の友だちだと思います。友だちのいいところを教えてあげると、言われた人の心はもっと優しくなると思います。
- ◆「友だちのいいところを見つけてこそ、自分のいいところがある」ということや、「友だちのいいところは、自分のいいところにつながる」と言うことがわかりました。だから、これからたくさんの友だちのいいところを見つけていきたいです。

「自分が好き」と言える「自己肯定感」は、社会性の基礎となるものです。人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という「自己有用感」は、自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれ、社会生活の基盤となるため、現行の小中学校の学習指導要領にも、異年齢集団等による「交流活動」の重要性が盛り込まれています。



文部科学省資料から

また、「人とかかわりたい」と思う気持ちは、自らの体験によって獲得されます。他の子どもと一緒に遊んだり、活動したりすることを通して、「人とかかわることって楽しい」「人とかかわることって苦痛なことではない」と感じるところから「人とのかかわり」が始まります。それが、「社会性の基礎」を形作っていくと考えられています。

「自己有用感」は、他人の役に立った、他人に喜んでもらえた等、相手の存在なしには生まれません。

そこで、低学年では「人とかかわることが好き」ということ、集団活動に進んで参加できることを通して自尊感情の基盤を構築し、さらに高学年になるにつれ、そうしたかかわりを通して、進んで協力できた、自分から働きかけができた、誰かの役に立つことができた、という集団の一員としての自信や誇り（自己有用感）の獲得を目指していきたいと思えます。保護者の皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。